

越谷も

YES, WE CAN.

「やればできる」

発行日: 2011年11月30日

発行者: チーム白川

No.12号

事務所: 越谷市大里 226-1  
TEL/FAX 048-970-8005

# 『トライ&チャレンジ』 Try & Challenge

3.11に見る  
越谷市の  
対応について

## 越谷の YES, WE CAN. Part XI

3.11 東日本大震災・福島原発事故は、わが国が繁栄の名のもと、切り捨てられてきた多くの犠牲を思い起こすに十分な材料を提供させてくれた。地震国日本の1000年に1度という大震災は、防災意識を一挙に思い起こさせることとなった。加えて原子力発電所機能を失っただけでなく、各地に放射能汚染という最大の課題をももたらした。今まで何のためらいもなく「じゃぶじゃぶ」使っていた電力が、ひとたび道を誤ればこんなにも生活を左右してしまうことを、思い知らされた事故であり、国内のエネルギー政策を真剣に考え直すきっかけとなった。

この間、越谷も多くの支援物資を送り、募金活動やボランティア活動に参加したが、原発事故に関する国の対応は当初から情報開示が充分とは言えず、その結果すべての情報の信用度が低下し、それを受けて地方自治体の市民に対する指示も、当然遅れに遅れて半年以上も経った今日、やっと方向が示されることになった。埼玉一安心な都市を目指すとした市長就任時の心意気は、子育て世代の母親たちの「子どもたちを放射能から守る」という切実な思いの前に、32万の市民を守るとした思いの高さは、もろくも崩れ去ったのであろうか。

100歩譲って、リーダーの思いとは裏腹に改善されない相変らずの隠蔽体質、情報開示ができない理由に影響の大きさに対する懸念意識、過去の経験に照らした判断能力(1000年に1度の災害では経験はない)、小中学校における対応の丸投げ(学校長に任せてしまう)、市民を守るためのリーダーシップ発揮とは遠く及ばない迷走となった。お隣、野田市の根本市長が打ち出した「国が動かないなら、地方がやる」と率先したリーダーシップの取り方は、功罪は別としてうらやましく思えるのは私だけであらうか。(西川)

「チーム紹介は  
全て終了しました。」

### 政経セミナー第2期・第2回特別講座 国が動かなければ、地方が動く -10/25

野田市は労働者の最低賃金を守る「公契約条例」の制定、放射能の基準値を市民に提示する等、国に先駆けた取り組みが行われている。多様な意見がある中で、合意を形成していくリーダーシップの取り方について大変参考になった。(岡村)



講師: 根本 崇・野田市長

◇ 第3回特別講座は12月に行われる予定です。

### グラウンドゴルフ

#### 【第24回 がんばろう越谷! グラウンド・ゴルフ大会】

9月15日晴天の中、しらこぼと競技場で150名あまりの参加で開催された。事前のリーダー会議での失格の基準の共有化や、当日の運営・役割への積極的な参加が大会の活性化を促し、更なる参加意識の向上に繋がっている事が感じられた大会であった。(三輪)

### 第6回大袋地区市政報告会に参加 -10/1

参加者は前回の半数程度の約20人にとどまった。内容は、9月定例会議の報告が中心で、平成22年度決算認定議案・放射能問題・議会改革・議員参集訓練等の発言があった。質疑応答は、「平成22年度決算について」「市立病院黒字化の理由」等で熱心に行われ、気迫のこもった質問が出された。(狩野保弘)



守屋議員(左)、武藤議員、辻議員

「チーム白川」の会員を募集しています。問い合わせ先: 事務局 岡村 090-3342-3064

## ■ 第96回タウンミーティング -9/24

- 9月議会報告 白川秀嗣議員
- 選挙公約の実現に向けた活動と市議会の実態  
ゲスト: 福田 晃議員、橋本哲寿議員  
(民主党・ネット・無所属の会)

白川議員から一般質問と決算特別委員会について、ゲストからテーマに沿った話を聞いた。ゲストを含めて30、40代の子育て世代が多く参加し、政権政党・越谷市の民主党会派の政策と自分の公約の整合性を問う等シビアな質問が相次いだ。(三輪)



橋本 哲寿議員

福田 晃議員

## ■ 第97回タウンミーティング -10/29

- 市議会議員として市民に向けて発信したいこと  
ゲスト: 山田大助議員(日本共産党越谷市議団)  
スピーカー: 白川秀嗣議員

白川議員から放射能関連の越谷市の最近の動きと地域共同体の再生に向けた市民の当事者意識と責任が報告された。山田議員からは「政治の根本は税金の集め方と使い方・選択と集中」が率直に語られた。両議員の共通項と方法論の違いがある中で討議が進んだことから、桜井地区市政報告会の蓄積が感じられた。(三輪)



- ◆ 第98回(11/26)は次号に掲載します。 山田 大助議員
- ◆ 第99回は12/24頃開催予定です。

## ■ 第2回大相模地区市政報告会に参加 -10/7

思っていたより参加者は多く約40名。統一地方選挙で二人の市議を応援した自治会からの応援団に見えた。予想通り、お願いの儀が起り、これを大満足させていたら越谷市に未来はないと感じた。自治会と市議の関係とは何なのか。市議も市民も、目の利益に囚われないことは難しいが自分の子孫のことを考えて、限られた税金の使い道を、使い方を、優先順位を決めて話し合ってもらいたい。(名倉 瞳)



玉生議員(左)  
服部議員

## ■ 第2回桜井地区市政報告会に参加 -10/18

9月議会の報告が行われ、放射能のデータ計測(空間、土壌、給食の食材)に市が本格的に取組み始めたことが報告された。一方で、ごみの焼却灰、下水汚泥が処分先の自治体から受け入れストップされており、対応策が検討されているが、大量生産・大量消費・大量廃棄を転換することが市民達の課題である。(岡村)

5名の議員による報告会



## ■ 市民から見た越谷市議会や市民の現状と課題について

市政報告会も地区が広がり、議員の説明責任を問う市民の意識も広がってまいりました。

しかし、意識の中で自分の支持者や後援会を意識した発言がまだまだ多く、32万人の市民の代表としての発言とは思えません。その中で、市民からの非合理的な発言に対し毅然とした対応を行い、相手のことを考えながら、理解を求める行動を行うことができる議員を増やすことが課題であり、市民の大切な役割と考えます。

市民も財政や議員の現状を知り、行動を起こさないのであれば、自分が無責任であり、その無責任が自分の家族や世帯の人を苦しめると、世代を超えてしっかり認識すべきではないでしょうか。

(岡田英夫)

## ■ 「市民と議員の勉強会(桜井地区)」に参加して ~まず、知ることから~

放射能被ばくから子どもたちを守るために、越谷市役所はどんな対応をしているのか知りたくて、小学生がいる保護者の一人として参加した。越谷市の学校・保育所・公園などの空間測定、給食など、直接担当者から説明が聞け、また直接質問・要望できる有意義な場だった。質疑応答も一つ一つ丁寧に対応いただいた。やはり市民が声を上げていくことは市の取り組みを後押しする上でとても効果的であると認識した。また、桜井地区は超党派議員による市民目線での活動が活発で、とても恵まれている地域だと実感しております。(大里・浅野光宏)



市の説明者

## 編集後記

◆3.11 大震災以降、被災を受けなかった越谷市においても、学童の緊急時の避難方法、放射能汚染値の計測、廃棄物処理方法、電力使用料のピーク対策等、新たなまちづくりの政策課題に直面している。2000億円弱の借金を抱え、税収が右肩下がりに向かう今日、「あれもこれも」は実行できず、市の650事業の優先順位をつける作業を、サービスを受ける市民が参加して行うことが不可欠ではないか。(岡村)

<http://shirakawa.mie1.net/>